

機関リポジトリの品質保証

土屋俊
(千葉大学)

話題

- 克服すべき課題の分類(あくまで暫定)
 - 技術的問題
 - サイト構築
 - 連携(メタデータ・ハーベスティング)
 - マイグレーション
 - 制度的問題
 - 機関リポジトリの「機関」としての認知
 - 人的資源問題
 - 搭載コンテンツのジャンルと品質
 - 可視性と誘導
 - 継続性(マイグレーション)
 - 権利処理

サイト構築

- 既成のソフトウェア
 - Eprints
 - DSpace
 - さらにまたいろいろのopen source
 - Endeavor(?)
- オーダーメイドのソフトウェア
- ハードウェア
 - サイトのネットワーク上の位置(バックボーン? ラン上?)
 - セキュリティとバックアップ

メタデータハーベスティング

- **メタデータの作成**
 - 著者作成
 - 図書館作成
- **自分のカタログの位置づけ**
 - それそのものとして目録化すること
 - 業績データベースとの連携
- **ハーベスティング**
 - 中央ハーベスティング
 - 相互ハーベスティング

マイグレーション

- 著者よりも生き延びなければならない
 - 退職、転職との関係(制度的問題?)
 - 著者の個人ホームページよりも長く
- 出版者よりも生き延びなければならない
 - プラットフォームの変遷
 - 覚悟する必要がある
 - 文書規格の遵守の必要性
- ひょっとして機関よりも生き延びなければならない?
 - 統合、譲渡の許容

機関としての認知への努力

- 図書館の気まぐれの事業であってはならない
- 「大学」レベルでの理解
 - 経営者への説得
 - 研究者への説得(学内、学会)
 - 図書館への説得
- 研究協力との連携
 - 学内各種データベースとの連携
 - 外部資金獲得との連携
- 評価事業との連携

人的資源問題

- どのような人的資源が必要か
 - コンピュータ操作
 - 制度的側面
 - 対外・対内関係
- どれだけの人的資源が必要か(機関認知的観点からも重要)
 - 専任？
 - 片手間？
 - 外注？
 - その他？

可視性と誘導

- どのようにして利用者に認知させるか
 - 学内利用者は著者である
 - 学内利用者はたまたま見つけた人である
 - 訴えかける対象の特定が困難
- どのようにして対象に誘導するか
 - 主題？
 - キーワード？
 - 全文検索？
 - 著者名？

継続性

- 機関としてのコミットメントの確保の必要性
 - 位置づけの理念化
 - 大学がそれを必要とするということの明確な表明
 - そのための資源投下の必要性の明確な表明
 - 担当者の制度化(図書館から独立でもよい)
 - 「マンネリ化」の必要性
- 研究者サイドでの関心の持続
 - 習慣化すること
 - 自覚化すること

権利処理

- 著者による著作権管理の不可能性
 - 出版者への譲渡は理不尽ではない
 - しかし、理不尽でもある
 - 必要なのは、「権利処理担当者」
 - 大学が権利処理をする可能性
- 「緑化」問題
 - 認識の共有へ
 - 機関の支援(機関独自統一契約書)
 - 雇用契約レベル

品質保証

- 品質保証を機関リポジトリはできない
- したがって、品質保証ずみのものを搭載する必要がある
- それは可視性向上との連携でもある
 - 既公刊論文
 - 他で発表されたもの(上演、講演などなど)
 - 外部資金によるデータベース、報告書
- 筑波大学の電子図書館はなぜ現状のようになっているのか？